

1 - 1		主題	認知症改善を目指した「学習療法」への取り組み	
認知症の改善を目指して		副題	「学習療法」の導入がもたらした、スタッフの変化	
新しい事への挑戦				
研究期間	18ヶ月	事業所	通所介護事業所 デイ・ホーム上馬	
発表者：石崎 三郎 (いしざき さぶろう)			アドバイザー：	
共同研究者：				
電 話	03-5430-8050	メール		
FAX	03-5430-8051	URL		

今回発表の事業所やサービスの紹介	「社会福祉法人日本フレンズ奉仕団」が運営する4カ所のデイサービスのうちの1カ所で、東急田園都市線駒澤大学駅から徒歩10分の閑静な住宅街の中にある、事業所です。定員は25名で、アットホームな雰囲気を大切にしています。スタッフ構成は管理者含め15名中、8名が週3日～1日の非常勤スタッフである。
------------------	---

《研究前の状況と課題》 書道・フラワーアレンジメント・絵手紙・カラオケ等の趣味活動的なプログラムの充実を図ってきたが、認知症利用が増える中、認知症に改善効果のあるプログラムのあり方について模索していた。そんな中、認知症の改善・予防に効果があると研究されていた「学習療法」があると情報を得て、日常の活動に導入する事にした。 導入にあたって1番の課題は、それぞれ勤務日数が違うスタッフ構成の中での情報の共有と、意識の統一であった。学習療法に対する正確な知識と理解、何より、新しい事にチャレンジする事の共通の想いである。しかし、それらをクリアすることによって、スタッフの様々な変化も期待できると考えた。	《研究の目標と期待する成果》 平成21年11月から「学習療法」をデイサービスのプログラムとして、導入する事とした。導入に関しては、学習療法に対する研究内容から実際の実施方法などを共通に理解することが必要と考え、7月頃から法人内の研修や、業務終了後に事業所内での勉強会を重ねた。 スタッフ1人が、1人ないし2人の利用者に対して30分程度かかる学習療法を、普段でも人員的に余裕のない状況の中で実施する為に課題があった。 ・どこで。どの時間帯でやるのか ・誰が対応するのか 始めたからには「今日は出来たけど、明日は出来ません」と言う事は出来ない。それらをクリアするにはスタッフ全員がそれまでのやり方を払拭する必要があった。そこで、管理者以外に学習療法担当のリーダーを決めて、全スタッフで取り組む事とした。
---	--

《具体的な取り組みの内容》

・実施時間帯の確保

1日の流れを人員配置も含めてもう一度検証し、時間・場所の隙間を開けるような形で、午前2人×2組、午後2人×3組の計10人を実施できる体制にした。

・「学習療法」を誰がやるか？

学習支援者（療法を実施するスタッフ）については事前の研修が必要であり、一定のコミュニケーション等のスキルの確保も重要である為、選定を考えたが、全員で関わる事により、絶え間なく療法を実施することが出来、スタッフのスキルアップにもつながると考えた。（現在は7割のスタッフが支援者として学習療法を実施している）

・教材提供会社への教材費 2,100 円の支払いが自己負担のため、申し込みのあった方から順次実施している。現在16名の方に週3回実施している。

・療法の内容は FAB（前頭葉機能検査）MMSE（認知機能検査）を基に利用者にあった教材を選定し、それを使用して計算、音読のプリントをやっていただく事、30～100 までの数字を並べてもらう事、その後利用者と、スタッフがコミュニケーションをとって終了。

導入後2年目を迎えたが、正しく学習療法を提供する為に、スタッフのスキルアップも含め、今後どの様に展開していくか、スタッフ全員で取り組んでいる。

《取り組みの結果と評価》

「いつやるの?」「誰がやるの?」「どこでやるの?」新しい事に取り組む際には常に出てくるフレーズである。それらを払拭・解決するには全員で考え、知恵を出し合う事で何とか学習療法を実施して2年目を迎えた。スタッフの異動等により、全員が療法支援スタッフには、なれていないが、帰りのミーティングでは、支援者スタッフが、当日の学習療法の報告をし、当日出勤全スタッフが利用者の様子・変化の情報を共有し、ている。

利用者の数値での変化は、FAB、MMSE の2つを定期的の実施しているが、学習療法実施後6か月～12か月後の検査で、FABは9割以上、MMSEは6割以上の方の数値が改善・変化なしとなっている。

《まとめ》

FAB・MMSE の数値の上で、高齢者の多くが改善している結果は勿論のこと、学習療法と言う新たな挑戦を全スタッフで行ったことが、スタッフのスキルアップや事業所の活性化につながった。

《参考文献》

くもん学習療法センター著「学習療法の秘密」
川島隆太監修 くもん出版

《提案と発信》

「認知症の改善」とは、普段のケアの中でも「落ち着いてきた」「楽しそうにされている」等と評価されてきたが、多くは抽象的な評価で終わっていた。しかし、学習療法の導入によって、明らかな効果を得ることができた。
学習療法への取り組みには、様々な課題があり、現在でもその課題に向かっているところであるが、事業所スタッフが一丸となれた事は大きな収穫である。

【メモ欄】